



## 「まぶた」の内側は、なぜ赤いの

### 皮膚の下の血管と血液が、すけてみえている

「まぶた」の内側（うら側）が赤いのは、ねん膜がすけて、血管が見えているからです。

「まぶた」の内側は、結膜というねん膜（うすい湿った膜）でできており、たくさんの毛細血管が、網のようにはりめぐらされています。そのため、ねん膜の下の血管と血液がすけてみえているので、赤く見えているのです。

### 「まぶた」のはたらき

「まぶた」は、顔や目に何かかぶれる前に、すばやく閉じて目を守っています。また、強い日差しからも、目を守っています。

そして、「まぶた」は時々閉じて、なみだで目をぬらし、かわかないようにしています。いつも、なみだで目をぬらしておくことは、まぶたと目の、すべりをよくするためだけではありません。なみだは、目に入ったごみやほこりを、洗い流してくれたり、ばい菌を退治してくれたり、血管のない角膜（黒目の表面の膜）に、酸素をとどけてくれたりします。そのため、なみだで目をぬらしておくことは、目を守る上で、とても重要なことで、「まぶた」は、その役目もしているのです。（監修・保志 宏）

